

令和6年度小松市立東陵小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応＞ ・月末に生徒指導4つの視点で教員がふりかえりを行い、授業力向上、授業改善に活かす。 ・児童の様子や言動を丁寧に見取った上でいじめアンケートを学期に1回行い、ふだんは言い出しづらいことを発信できる場づくりを行う。また、アンケート後は、みまもり週間として、児童と面談する場を設け、アンケートの内容をより深く聞き取る時間を確保する。 ・キラリタイムで「おしゃべりキラリ」や「先生キラリ」を設定し、クラスや異学年の交流通して、共感的人間関係の構築を図る。（毎週月曜日の帯タイム） ・学期に一回「東陵っ子フェスティバル」を開き、クラスや異学年の交流通して、共感的人間関係の構築を図る。	・毎月、生徒指導の4つの視点で、授業や自分自身をふり返ることができた。今後は、重点目標を決め、改善すべきことを具体的に意識できるように活用していきたい。 ・今年度、はじめて「いじめられていないか」「はい・いいえ」で回答する項目を入れた。文章では表現しづかったことが、回答を選ぶようにしたことでのいじめの被害にあっていることを表現しやすくなった。そのためか「いじめられている」と回答した児童が多かった。面談期間に聴き取りできたことで重大事態につながることはなかった。今後もアンケートと面談の時間を確保し「いじめの目のがし0」をめざす。 ・キラリタイムや東陵っ子フェスティバルは、楽しみにしている児童が多い反面、児童の自由さが目立つこともある。教室でふだん意識できている学習規律を生かして、よりよい人間関係を築くという目的を児童と共有したうえで実施する。	・生徒指導の4つの視点をformsで毎月振り返り、グラフでふり返しをしてみたところ、周知不足や新しいやり方の定着が進んでいないことから、formsへの回答は全教員からとることができなかった。今後もformsでふり返しを行っていただきたいので、普及徹底を図る。 ・いじめアンケートから人間関係がより明確に見えてくるようになった。人間関係に大きな変化が少ない小規模校ならではの「これまでもそうだったから」にメスを入れるきっかけになった。いじめを見逃さず、気になると感じたことには全教職員で関わっていききたい。 ・1～3年は、キラリタイムでよく関わりを増やすことができた。4～6年は、委員会などもありキラリタイムの実施が難しくかったようだが、そのふりかえりが意味だったのでキラリタイムについても全教員でふりかえりを行う。
特別支援教育	＜個に応じた支援システムを効果的に推進する＞ ・個人ファイルや配慮が必要な児童についての個別の支援シート及び児童理解の会での情報交換を通して、毎月個々の児童の正確な現状を把握し全体で共通理解し、より効果的な支援を実施する。 ・各学期、定期的に校内支援委員会をもち、支援策を話し合ったり、支援体制の見直しは果たす。	・毎月の児童理解の会で、児童の現状を把握し、全体で共通理解できた。 ・配慮が必要な児童の個別の支援シートを作成し、専門相談につなげることができた。 ・2学期以降は、担任と支援体制の振り返りをこまめに行い、支援体制を定期的に修正、改善することでより有効な支援にしていける。	・児童理解の会の際に、専門相談をお願いした児童のその後の様子や、支援の方法などを確認できてよかった。今後は、支援員さんからの気になる児童について聴き取りをこまめに行い情報共有することで、よりよい支援に活かしたい。 ・気になる児童について校内支援委員会をもつことができた。今後も必要に応じて会をもち、支援体制の見直しを図りたい。
読書教育	＜読書の量的及び質的向上や授業における読書教育の充実を図る＞ ・朝の読書タイムの設定により、読書習慣の強化を図る。（毎週） ・朝読書の本の選定には、文学を中心とした「読むこと」の視点を充実させる。 ・各教科の図書利用計画を基に、図書利用の学習を計画的に実施する。 ・図書ボランティアや教員の読み聞かせやブックトークを実施し、良書の紹介を奨励する。	・朝の読書タイムは、今年度は貸し出しの時間をとらないことで、より読書をする時間を確保できた。その分、貸出冊数が減少しているため、休み時間だけでなく、図書館利用の工夫を図っていく。 ・図書利用年間計画に沿って、計画的に学習することができた。また、教科書に紹介されている本市で立図書館から貸し出された本も活用できた（2・4・5年） ・図書ボランティアや落語の読み聞かせが計画的に実施され、児童の本への興味を高めることができた。	・朝の読書タイムは、物語を必ず読むようにとすることで続けて読むことで手軽な読み物から、長い章を読む事の定着を図ってきた。今後も物語を読むことを継続して、読む習慣の定着を図っていく。 ・利用年間計画に沿って、計画的に学習することができた。また、教科書の内容が一部変わったことで、それに対応した本をそろえた。市立図書館からの貸し出しも利用して活用できた。 ・図書ボランティアや落語の読み聞かせが計画的に実施され、児童の本への興味を高めることができた。
保健健康教育	＜自分の身体や健康に関心を持ち、生活を改善しようとする児童を育成する＞ ・5月と10月に心と体のチェックリストの取り組みを行い、生活習慣に関する個別の課題を把握し、指導に生かす。 ・6月と11月の発育測定時に、全学年「メディアと健康」についての保健指導を行う。 ・年に4回行う、家庭学習ががんばり週間の取り組みカードに、メディアの時間と就寝時間についての項目を入れ、児童の生活習慣改善と、各家庭での意識の向上を図る。 ・昨年度のスポーツテストの結果から、一校一プランを持久力アップに設定し、児童の持久力アップを狙う。具体的には、20mシャトルランの測定を5月に行い、11月に再度測定する。二回目の測定で、全校児童のうち80%の子が一回目より伸びているかを判断材料とする。目標達成のために、体育の授業の最初に、縄跳びで前回し跳びを30秒間跳び続ける準備運動を共通の取り組みとして行う。また、スポチャレ石川でも「40m」と、「大縄跳び」の2つに取り組み、持久力アップを図る。	・今年度から家庭学習ががんばり週間のメディアに関する項目を、「心と体のチェックリスト」に一体化させた。5月に実施した「心と体のチェックリスト」では、家庭におけるメディアの使用について実施を把握し、6月の発育測定に合わせて保健指導を実施。メディア使用時間の目安や家庭でのルール見直しを呼びかけ、児童の生活習慣改善を図った。 ・一校一プランでの持久力アップへの取り組みでは、体育の授業の最初に縄跳びを使って連続で跳ぶ活動をするのを周知し、取り組みを進めている。そして、一回目の20mシャトルランの計測を終えた。結果は男子は4・5・6年生が県と国の平均を超えて、かなりよい結果が出た。特に6年生が平均より大幅アップという結果となった。女子は、4・5年生が県と国の平均をわずかに下回ったが、6年生は平均を大きく上回るという結果となった。2学期は、持久走大会を控えているため、行事にむけて児童の持久力アップに努めていきたい。また、スポチャレ石川の取り組みも推進していく。	・10月に心と体のチェックリストを実施したところ、6月の結果よりも長時間メディアを使用する児童の割合が増えた。また、10月に外部講師を招いて睡眠講話を開催した。その内容を後日、参加できなかった6年生や全校の保護者にも視聴してもらった。そして、チェックリストの結果や睡眠講話で学んだ事も含めて、メディアと健康について11月に各学級で保健指導をした。短期的な改善は難しい課題であるため、引き続き児童と保護者へメディアと健康について発信していく。 ・一校一プランにて、持久力アップの取り組みを行ってきた。当初立てた計画通り進めることはできたが、目標の80%以上の子が一回目より記録を伸ばすということがには繋がらず、35%に留まった。達成できなかった要因として、設定した目標が高すぎたこと、共通の取り組み（スポチャレ石川、縄跳び）で適切に持久力をつけられなかったことが考えられる。来年度は、適切な目標を設定すると同時に、共通の取り組みを見直す必要がある。
情報教育	＜GIGAスクール構想を推進し「児童一人1台端末を活用して学ぶ授業」「ドリルアプリの活用」を充実させる。＞ ・全教員が、SKYMENU ClassやTeamsを利用し、対話的な学びができるように環境を整備する。 ・「児童一人1台端末を活用して学ぶ授業」を推進するために、1月1回、実践紹介タイムを設定する。具体的実践紹介ができるよう工夫する。 ・すべての児童のタイピング技術の向上を目指し、朝タイムに計画的にタイピングの練習タイムを設定する。 ・授業および家庭学習においてQubenaやドリルアプリを効果的に活用し、学力の定着、向上を図る。	・ICTインストラクターにTeamsの活用について研修をしていたが、Teamsを使って会議やアンケートを実施した。 ・学習用端末を活用した授業の実践を教員間で交流し、他の学年がどのような実践をしているのかを知ることができた。2学期以降は、作った教材を実際に見たり、使い方を紹介したりする機会を設け、より具体的に使い方を知らせていきたい。 ・毎週朝タイムにタイピング練習時間を設定した。学期末に確認することで上達や苦手な児童を知ることができた。この結果を、ローマ字入力が苦手な児童への支援に活かしていく。 ・定期的に家庭学習でQubenaやドリルアプリに取り組み、学習内容の復習をすることができた。	・ICTインストラクター訪問を活用し、新しいアプリや、ショートカットなどを導入してもらった。これからは、事前の声掛けや困っていることの聞き取りをこまめに行うことで、効率的に環境整備を行っていく。 ・夏季休業を活用し、GIGAミニ校内研修を3回開くことができた。また学習用端末を活用した授業の実践交流を定期的に実施できた。できたことだけでなく、できなかったことやこれからやりたいことも共有することで、前向きにGIGA端末を活用していく意識の向上につながる。これからは継続して実践交流、ミニ研修を開催していく。 ・朝タイムのタイピングやキュービナ、端末持ち帰りなどは計画的に実施できた。来年度も継続できるとよい。
家庭・地域社会との連携	＜地域に開かれた学校づくりを推進する＞ ・家庭、地域に学校の教育活動について、学校だより、ホームページ、コードモンを活用してこまな情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。 ・参観日、学校公開等においてFormsやコードモンでアンケートをとり、積極的に保護者からの意見を聞く場を設定する。 ・総合的な学習の時間等において、積極的に地域と関わる場面を設定し、地域の方々やふれあった地域の方々から学んだりする機会を更に増やす。	・定期的な学校だよりの発行、ホームページの更新を行い、地域へ情報発信することができた。今後もより細かな情報発信に努める。 ・参観日においてFormsやコードモンでアンケートをとり、保護者より毎回感想をいただくようにした。その感想を今後の学校運営に生かしてきた。 ・4年生の総合的な学習の時間に、こども園との交流を行った。また、3年生は小松商業高校を訪問するという新たな取組を行うことができた。今後も地域の方と触れ合う機会を設定していける。2年生の町探検の単元など各学年のカリキュラムの中においても地域の方と触れ合う機会を設定していく。	・学校・学級だより等に加え、コードモンを通じても積極的な情報発信に努めることで、保護者との情報共有を確実に生かした。 ・授業参観等で保護者からいただいた意見を職員全体で共有することで、保護者の思いを全体で受けとめ考えることができた。 ・児童が地域に出での学習、グスタフィーチャーを招いての学習など、人との触れ合いを通して児童の世界が広がる活動に積極的に取り組めた。

学校関係者評価	・不登校の現状は？今後も、子どもの主体性を大切にした取組を続け、児童の自己肯定感を高めたい。「学校が楽しくない」と訴える児童の把握がしやすい利点を生かし、「楽しくない」と答えた児童の理解を深め、一人でも多くの児童が、「学校が楽しい」と感じられるように児童の困り感に寄り添った指導を行ってほしい。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応が大切。いじめは決して許されないことであり、いじめのない学校作りを徹底してほしい。 ・保護者同士のつながりを深めることは大切。学校行事がスリム化されてきているからこそ、「親レシ」などの機会を大切にしたい。 ・「言葉遣い」について指導することは大切だと思う。言葉遣いが良くなることで誤解を招いたり、その子の良さが周りから受け入れられなかったりする場合もある。先生方の言葉遣いも子どもにとって大切な教育環境の一つであるので、子どもだけでなく大人も意識していけるとよい。 ・こども園では、毎日保護者と顔を合わせることができるので、保護者との連携も取りやすいが、小学校は難しさがあると思う。しかし、教育効果をあげるには学校と保護者および保護者同士の連携が欠かせない。保護者を巻き込んで理解していただき協力を得ながら、常に連携して取り組みを進めてほしい。 ・メディア使用時間の目安や家庭でのルール見直しを呼びかけ、児童の生活習慣改善を図ったのはよい。今後も児童の生活習慣改善のため家庭と連携を取りながら進めてほしい。現在では、メディアも必要なので使用時間のバランスが大切である。また、ネットの情報を見逃さず、正しい情報を鵜呑みにせず、正しい情報判断できるようにすることが大切である。保小中の連携を緊密にしていったり、保護者への啓発をこれまで以上にやっていくとしたい。 ・いじめアンケートにより、いじめを見逃さず、気になると感じたことには全教職員で関わっているのが良い。今後も、児童が感じていることを表現できる、誰にでも相談できる雰囲気をつくってほしい。 ・今後も、子どもの主体性を大切にした取組、児童の自己肯定感を高める取組を続けるとよい。一人でも多くの児童が、「学校が楽しい」と感じられるように児童の困り感に寄り添った指導を行ってほしい。
---------	--